

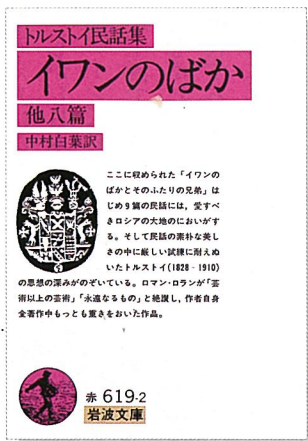


トルストイ芸術の集大成に 描かれた人間社会の本質

トルストイの作品といえ
ば『戦争と平和』『アンナ・
カレーニナ』『復活』などの
長編大作を思い浮かべる方
も多いかもしれないが、ロ
シア民話に題材を取った晩
年の短編こそがトルストイ
芸術の集大成だと主張する

イの影響が強く見られる。
**たどり着いた
メッセージ**

本篇の内容は次のような
ものである。軍人セーミヨ
ン、商人タラス、農民イ
ワンの三兄弟に対して悪魔



1932 年刊
岩波文庫

人も少なくない。たとえば、
作家ロマン・ロランは「こ
れは近代芸術における唯一
無二の作品である」と絶賛
している。わが国へのトル
ストイの影響も大きく、な
かでも、武者小路実篤らは
「白樺派」を主宰し、トル
ストイが描いているような理
想郷を九州日向に「新しき
村」として実現しようとさ
えしたのである。また、宮
沢賢治の童話にもトルスト

がちよつかいを出し、軍人
は隣国を攻撃し逆に滅ぼさ
れ、商人はカネの亡者とな
りモノを買いあさるが、す
べてを失ってしまう。農民
の「イワンのばか」だけは
頑として悪魔の罠にから
ず正直に労働を続け、頭を
使って働くべきだという悪
魔を逆に退治してしまうと
いう話である。
この物語が書かれたのは
一八八五年だから、二〇世

紀に人類が経験した悲惨な
戦争や経済恐慌をトルスト
イは知る由もなかったが、
本篇が描く拡張的軍事行動
や悪魔によって金貨が乱発
される場面は、今も続く地
域紛争やバブル経済と重ね
て論じることが可能である。
逆にいえば、本篇で扱わ
れている戦争と平和の問題、
労働という実体によって支
えられていない小賢しいカ
ネ儲けを助長する貨幣経済
の問題、質実で慎み深く、
感謝を忘れない魂のあり方
などは、いつの時代にも当
てはまる人間社会の本質だ
というのが、トルストイが
最終的にたどり着いたメッ
セージなのである。

ま た、手にたこができ
るような労働こそが

えたい。
「イワンのばか」とその狡
猾な兄弟の話はロシア民話
にあったものとはいえ、ト
ルストイが若い頃に書いた
数千ページに及ぶ大河小説
何冊分にも相当する内容を
わずか五四ページの短編に

手際よく凝縮し、子どもか
ら老人まで誰でも読めるよ
うに平易に書いたものであ
って、その手腕は見事とし
か言いようがない。

評者
北村行伸
一橋大学経済研究所教授